

2017.3.10 第5回小児がん拠点病院連絡協議会

関東甲信越ブロックの取り組み



小児血液・腫瘍科 **康 勝好**



血液・腫瘍科 **湯坐有希**



血液・再生医療科 **後藤裕明**



小児がんセンター **松本公一**

関東甲信越医療提供体制協議会の計画書

地域連携

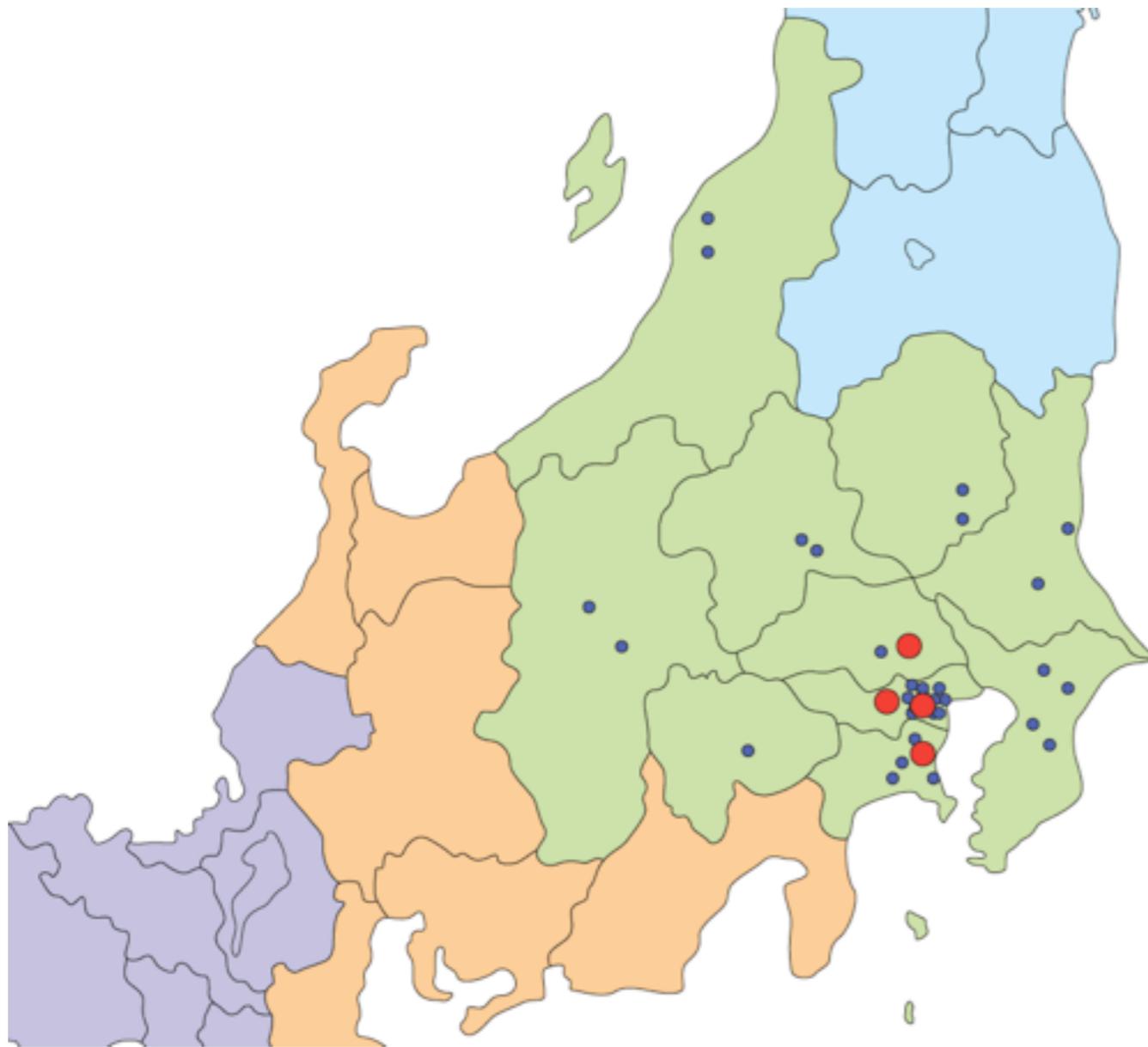
- (1) 地域ブロック内の拠点病院及び小児がん診療を担う医療機関との役割分担
- (2) 地域ブロック内の各拠点病院の役割分担
- (3) 地域ブロック内の拠点病院及び小児がん診療を担う医療機関では十分に対応できない疾患および病態への対応
- (4) 連携の具体的な方法
- (5) 地域連携を進めるための取り組み
- (6) 地域ブロック内の長期フォローアップの仕組み

人材育成

- (1) 小児がん診療に関する研修の実施
- (2) 拠点病院間及び拠点病院と小児がん診療を担う医療機関等との小児がん医療従事者の人材交流の実施

関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会

日本小児血液・がん学会の日本小児血液・がん専門医研修施設を基準として38医療機関を選定した。



年間700-750例の
新患発症

小児がん拠点病院

- 1 埼玉県立小児医療センター
- 2 東京都立小児総合医療センター
- 3 国立成育医療研究センター
- 4 神奈川県立こども医療センター

小児がん診療を担う医療機関

- 5 茨城県立こども病院
- 6 筑波大学附属病院
- 7 獨協医科大学病院
- 8 自治医科大学附属病院
- 9 群馬県立小児医療センター
- 10 群馬大学医学部附属病院
- 11 埼玉医科大学国際医療センター
- 12 千葉大学医学部附属病院
- 13 成田赤十字病院
- 14 日本医科大学千葉北総病院
- 15 千葉県こども病院
- 16 日本大学医学部附属板橋病院
- 17 帝京大学医学部附属病院
- 18 東京医科歯科大学医学部附属病院
- 19 東京大学医学部附属病院
- 20 東京慈恵会医科大学附属病院
- 21 日本医科大学付属病院
- 22 東京女子医科大学病院
- 23 慶應義塾大学病院
- 24 東邦大学医療センター大森病院
- 25 順天堂大学医学部附属順天堂医院
- 26 聖路加国際病院
- 27 国立がん研究センター中央病院
- 28 杏林大学医学部付属病院
- 29 横浜市立大学附属病院
- 30 東海大学医学部附属病院
- 31 昭和大学藤が丘病院
- 32 聖マリアンナ医科大学病院
- 33 山梨大学医学部附属病院
- 34 信州大学医学部附属病院
- 35 長野県立こども病院
- 36 新潟大学医歯学総合病院
- 37 新潟県立がんセンター新潟病院
- 38 北里大学医学部附属病院

行政機関

- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 山梨県
- 長野県
- 新潟県

オブザーバー

公益財団法人 がんの子どもを守る会

〈協議会構成員〉

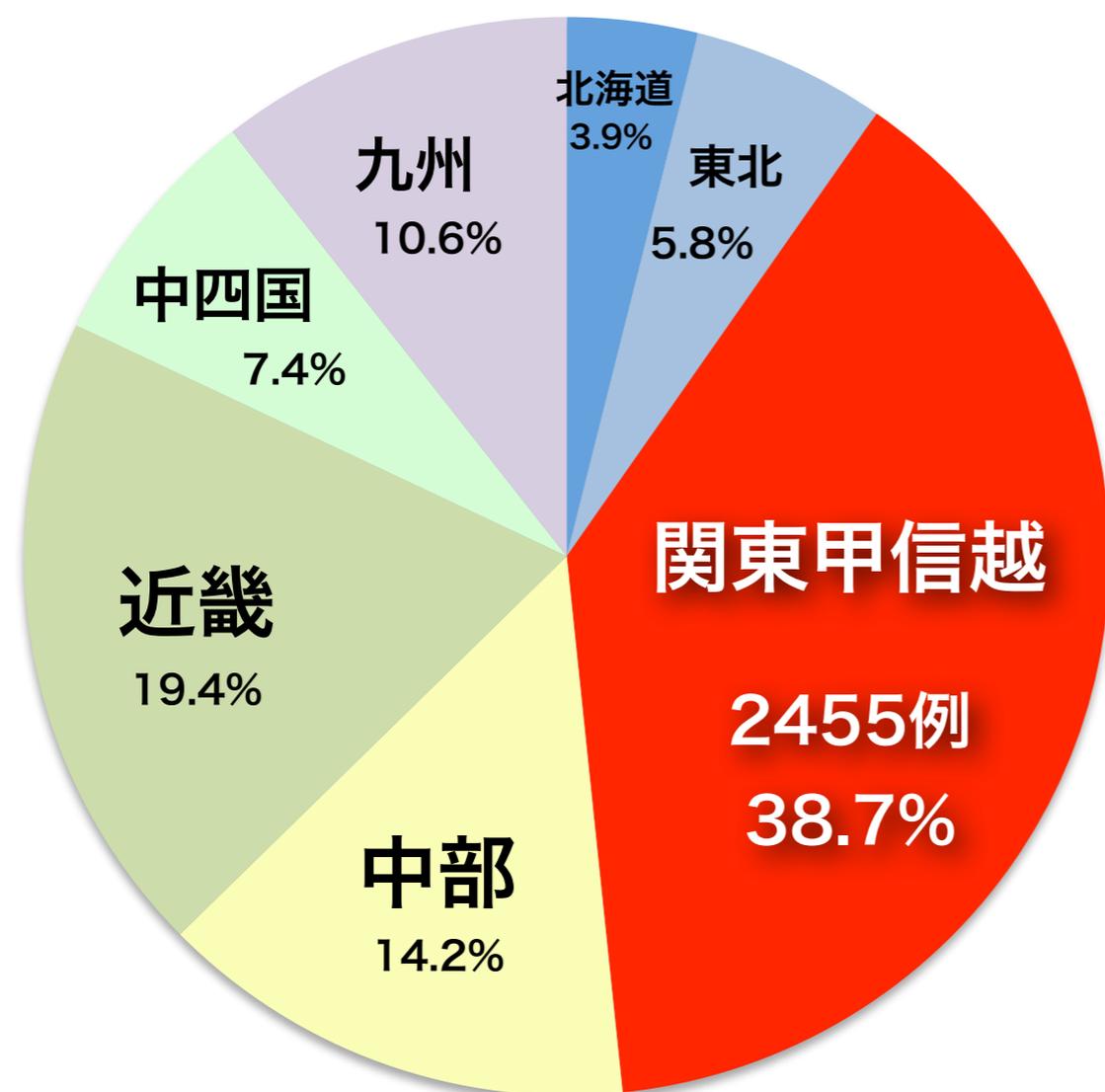
医療機関	38
行政機関	10
オブザーバー	1

(平成25年12月現在)

学会登録数からみた関東甲信越地域の小児がん

日本小児血液・がん学会 疾患登録 2016年集計より

2013-2015 (n=6347)



拠点病院
カバー率

1 拠点病院
あたりの
診療数(3年)

北海道	33.6%	83
東北	26.4%	97
関東甲信越	30.2%	186
中部	20.6%	94
近畿	54.5%	134
中四国	20.0%	94
九州	25.0%	168

各構成施設の診療実績等の公表

<https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/kantokoshinetsu.html>

独立行政法人 国立成育医療研究センター

基本情報（平成26年3月31日現在）

I 住所

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

II ホームページ

[独立行政法人 国立成育医療研究センターホームページ](#)

[国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービス「小児がん拠点病院を探す」](#)

相談窓口

患者相談窓口

名 称	小児がん相談窓口
電 話	03-3416-0181（病院代表）
F A X	なし
メールアドレス	なし
対応可能時間	月曜日～金曜日 8時30分～17時00分

医療機関相談窓口

名 称	医療連携・患者支援センター 医療連携室
電 話	03-3416-0181（病院代表）
F A X	03-5494-7682
メールアドレス	なし
対応可能時間	月曜日～金曜日 8時30分～17時00分

施設の特徴（病院からのメッセージ）

国立成育医療研究センター小児がんセンターは、全ての小児がん患者に対して世界標準かつ優しく温かい医療を提供するとともに、臨床研究の推進、新規治療の開発、長期フォローアップ体制の確立などを通じて、わが国の小児がん診療をリードすることを目標としています。拠点病院として、地域の小児がん診療を担う医療機関と連携し、小児がん患者及びその家族が、適正な医療と支援を受けることができるよう、全国的にサポートします。

小児がん診療に係る情報

診療受入容量（平成26年3月31日現在）

小児がん病床（対応可能数）	60
集中治療床（うちPICU、HCU）	12（12）
外来化学療法（○実績あり、○可能）	○
休日・夜間救急対応 （○院外患者対応可能（条件記載）、○院内患者のみ対応可能）	○
フォローアップ外来 （○フォローアップ専門外来、○そのほかの外来）（外来日）	○ 月金：午前 火水木：午後
小児がんセカンドオピニオン対応可能診療科	血液腫瘍科 移植・細胞治療科
	固形腫瘍科 脳神経腫瘍科
	小児外科 移植外科
	脳神経外科 眼科 整形外科
	放射線科 病理診断科

診療実績（平成26年3月31日現在）

	2013年	2010年-2012年
造血器腫瘍	23	87
急性リンパ性白血病	8	26
急性骨髄性白血病	3	12
リンパ腫	5	15
組織球症	4	27
その他の造血器腫瘍	3	7
脳脊髄腫瘍	29	83
固形腫瘍	36	92
網膜芽腫・眼腫瘍	9	36
神経芽腫群腫瘍	9	16
腎腫瘍	2	3
肝腫瘍	5	12
骨腫瘍	1	3
軟部腫瘍	7	4
胚細胞腫瘍	2	11
その他の固形腫瘍	1	7

再発・治療抵抗実治療数（平成26年3月31日現在）

	2013年	2010年-2012年
再発造血器腫瘍	5	14
再発脳脊髄腫瘍	7	23
再発固形腫瘍	16	25

移植実績（平成26年3月31日現在）

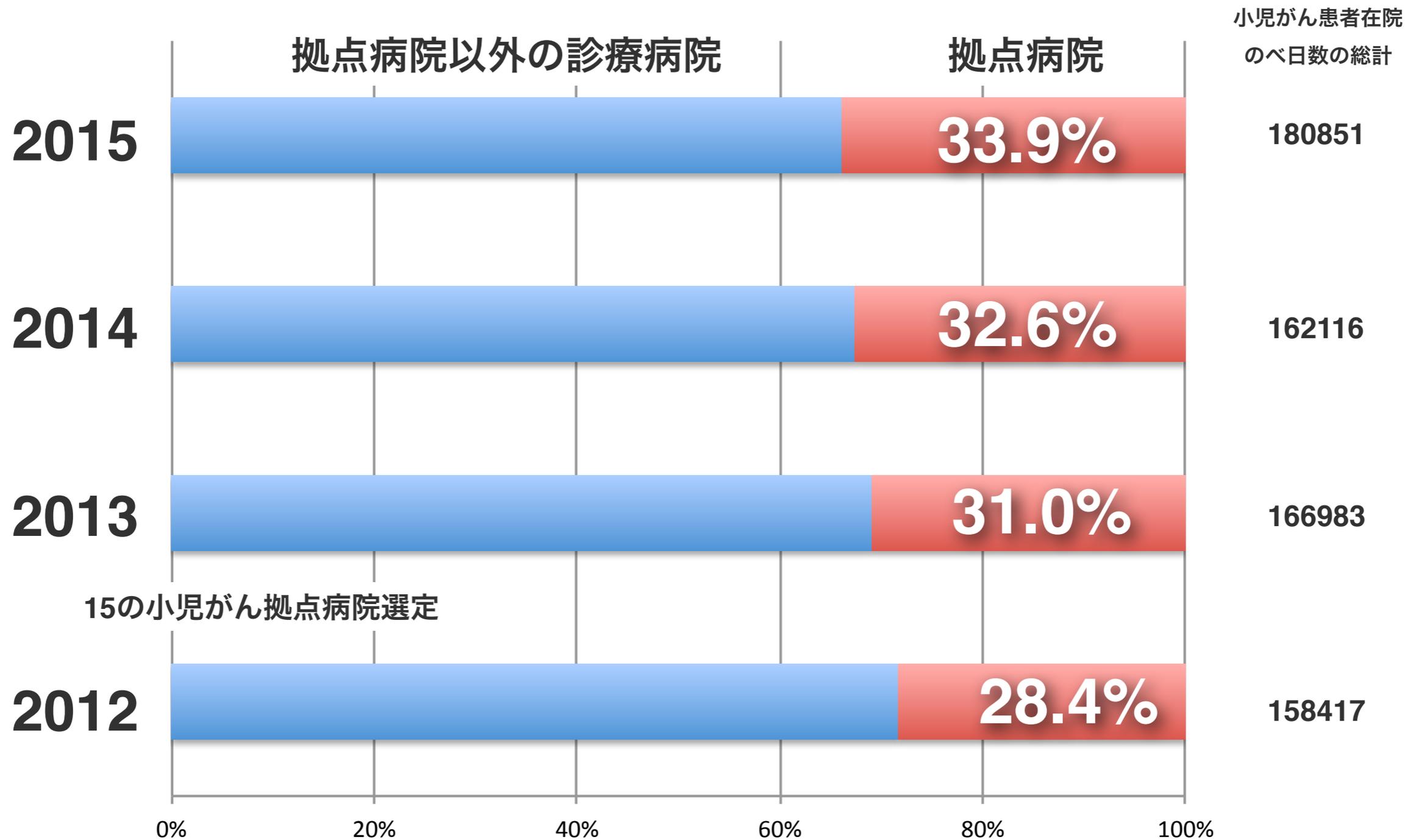
	2013年	2010年-2012年
同種造血細胞移植	10	26
同種異体造血細胞移植	0	5
家族間ハプロ造血細胞移植	2	1
非血縁造血細胞移植	5	11
臍帯血移植	3	9
自家造血細胞移植	7	19

集学的治療実施体制（年間10例以上○、可能○）（平成26年3月31日現在）

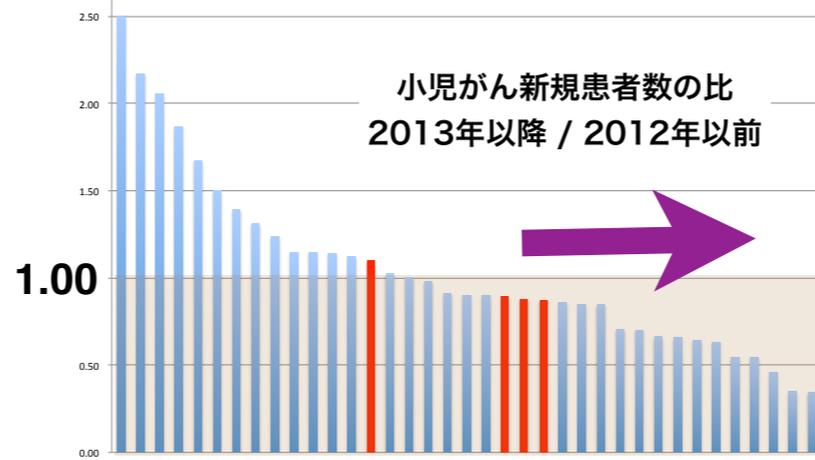
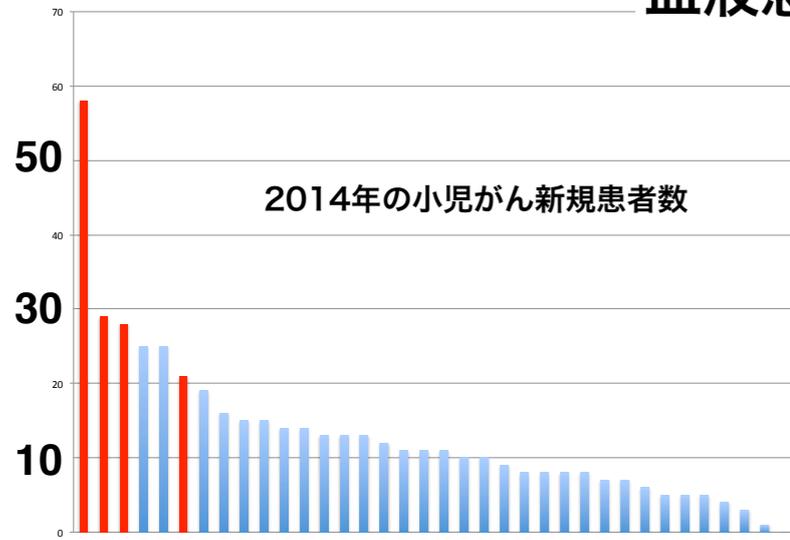
	化学療法	手術	放射線
固形腫瘍（下記以外）	○	○	○
脳腫瘍	○	○	○
眼・眼窩腫瘍	○	○	○
骨・軟部腫瘍	○	○	○

拠点病院への集約化はやや頭打ち(?)

小児がん患者在院のべ日数の拠点病院比率



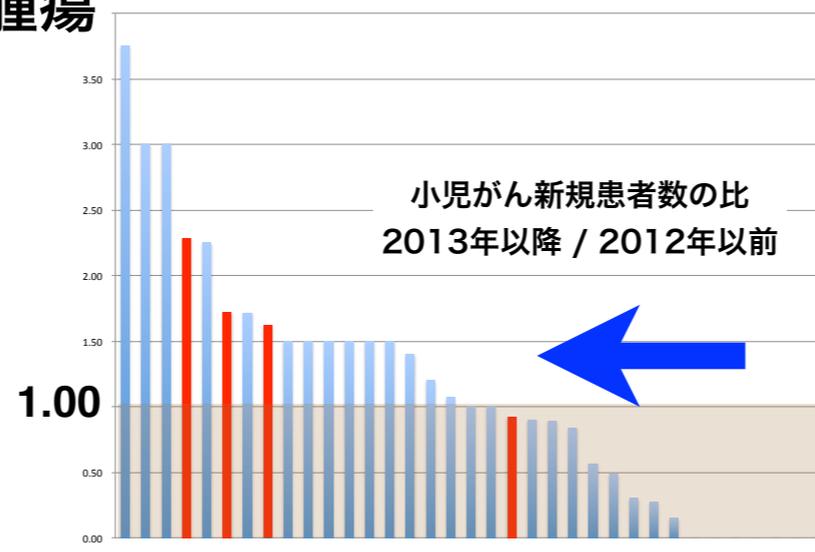
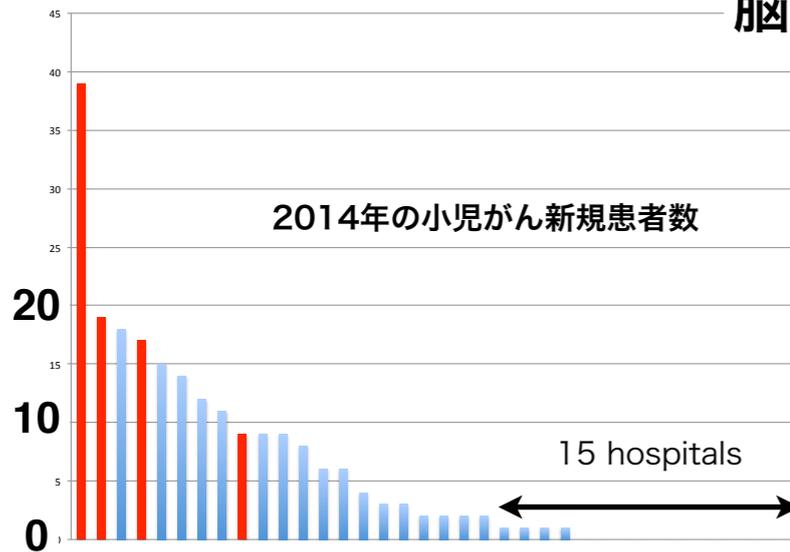
血液悪性腫瘍



均てん化

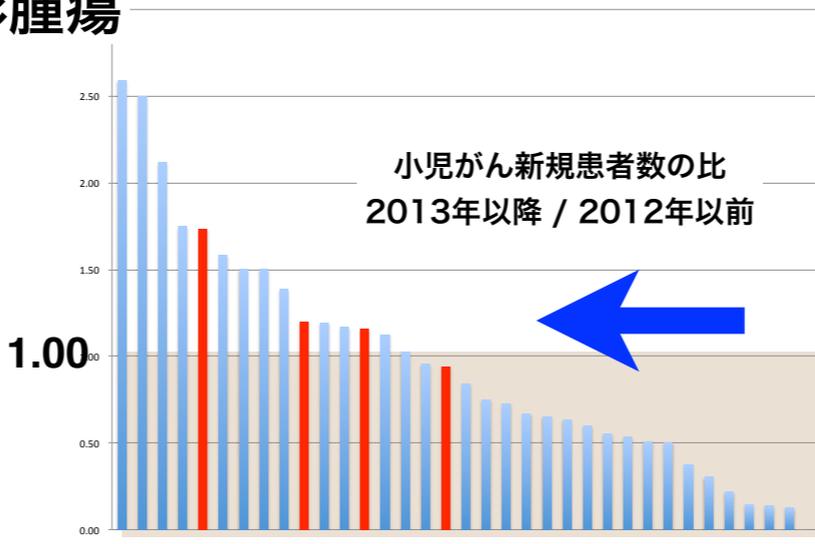
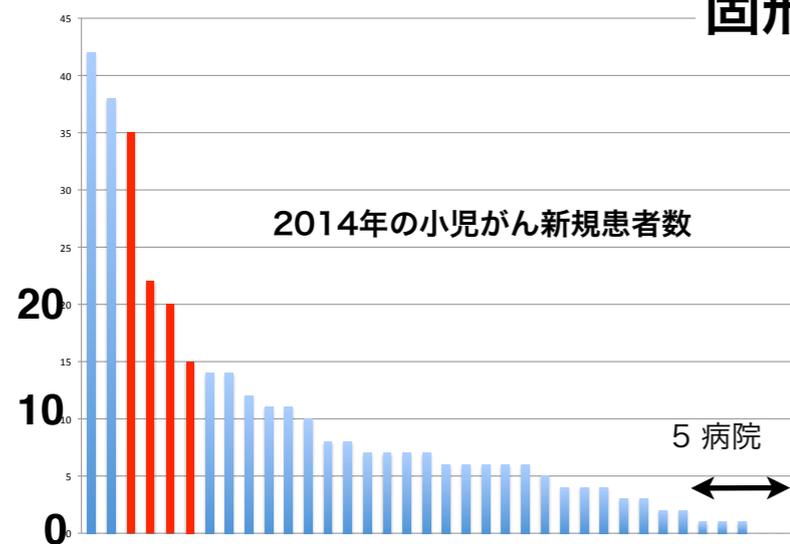
標準治療を行う血液悪性腫瘍患者は、地域ブロック内の小児がん診療病院で診療。
再発・難治血液悪性腫瘍患者は小児がん拠点病院に集約する方向。

脳腫瘍



集約化と均てん化は、疾患（病態）によって、方針を決めるべきである

固形腫瘍



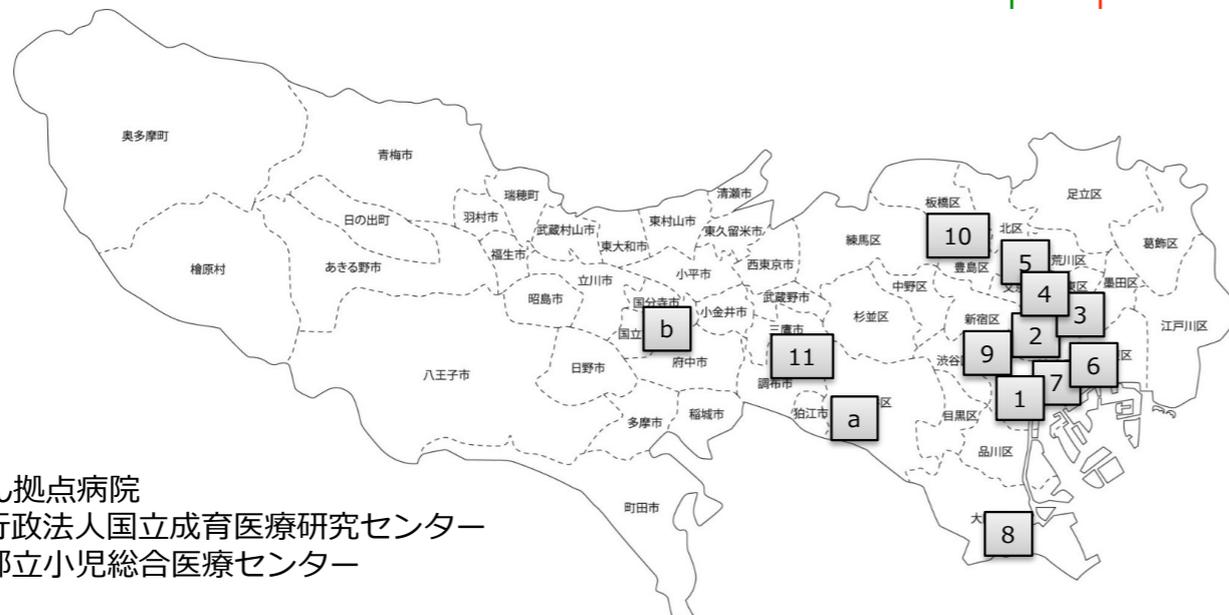
集約化

脳腫瘍、固形腫瘍患者は、経験のある小児脳腫瘍医、小児外科医の整った小児がん拠点病院などの専門施設に集約する方向。

東京都小児がん診療連携 ネットワークとの連携

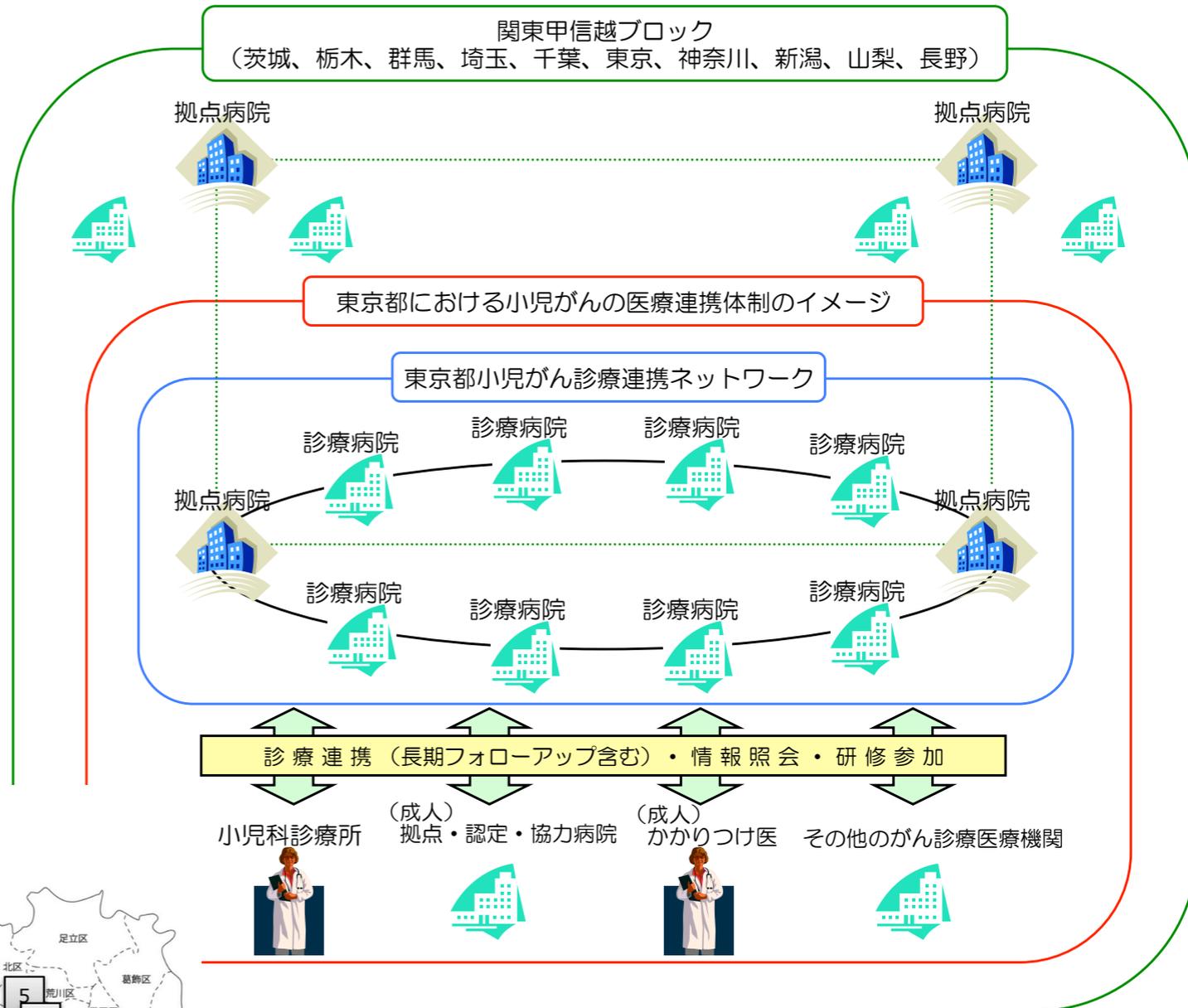
東京都がんポータルサイトでも診療情報を提供

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryoo/iryoo_hoken/gan_portal/index.html

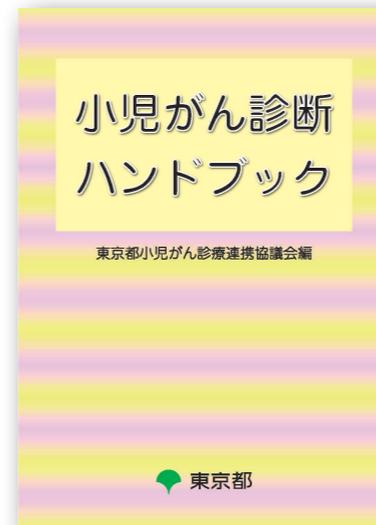


小児がん拠点病院
a 独立行政法人国立成育医療研究センター
b 東京都立小児総合医療センター

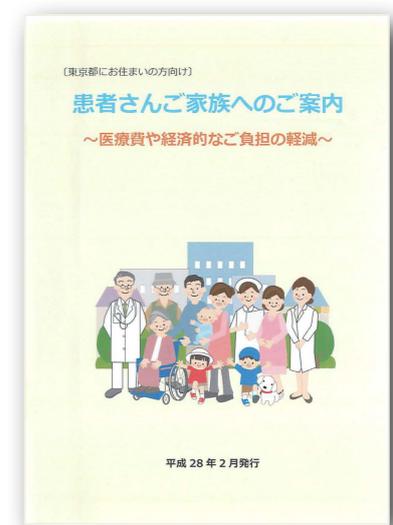
- 東京都小児がん診療病院
- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 東京慈恵会医科大学附属病院 | 7 独立行政法人国立がん研究センター中央病院 |
| 2 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 8 東邦大学医療センター大森病院 |
| 3 東京医科歯科大学医学部附属病院 | 9 慶應義塾大学病院 |
| 4 東京大学医学部附属病院 | 10 日本大学医学部附属板橋病院 |
| 5 日本医科大学付属病院 | 11 杏林大学医学部付属病院 |
| 6 聖路加国際病院 | |



診療連携部会



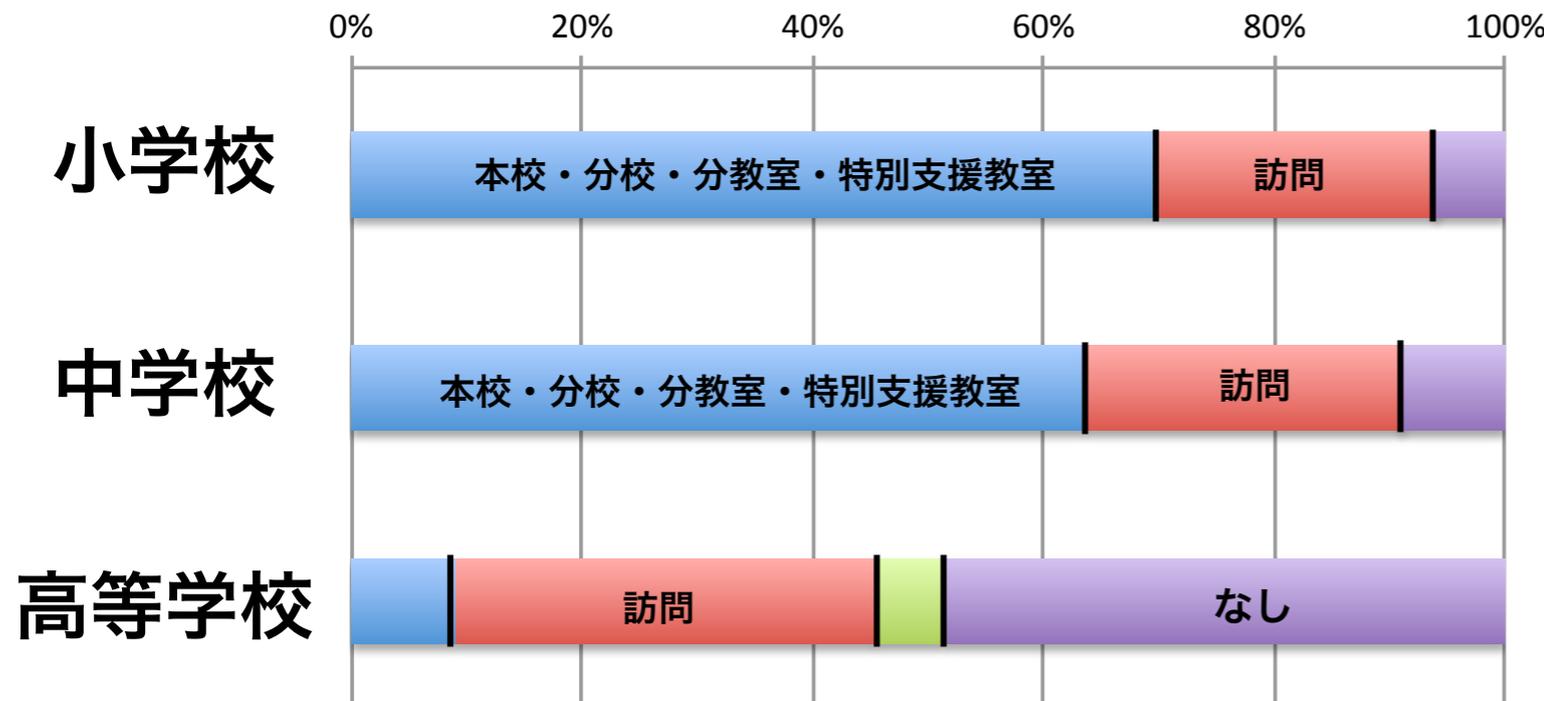
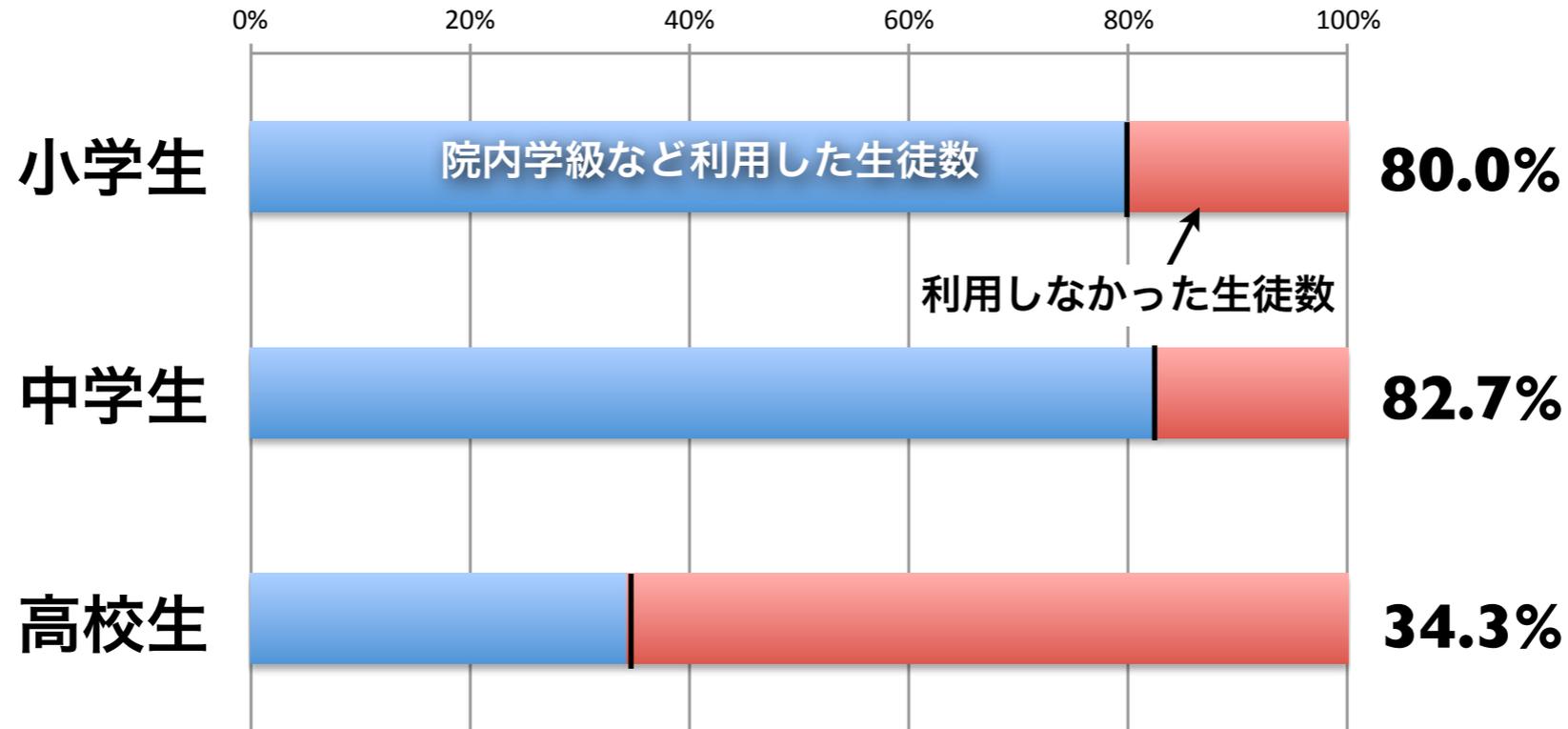
相談情報部会



小中高生に対する教育提供体制

回答分（37施設中33施設回答あり）

教育を必要とする生徒数（%）



■高等学校の教育が十分に提供されていない

■転籍の問題

■退院後のフォロー体制

高等学校の教育が十分に提供されていない

特別支援学校の教員などがボランティアとして教育支援

院内の職員用図書館を高校生が利用できるようにし、学習環境を整備。

入院中の課題を行った時間数が、授業時間と認められて進級が可能であった

県立高校では20日以上長期入院の生徒に対し、1日2時間週6時間を上限で病院派遣が出来るような仕組みができた。(神奈川県)



在籍校と特別支援学校（訪問学級）の連携が必要

第3回関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会

2016年11月21日（月） 14:00～16:30

東京八重洲ホールホールB2

議題：

- (1) 第4回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会報告
- (2) 小児がん患者家族への教育支援
- (3) 小児がん患者家族への教育支援支援の実際
- (4) 小児がん患者家族への教育支援訪問教育との連携について
- (5) 小児がん患者家族への教育支援リーフレット紹介
- (6) 意見交換会

小児がん拠点病院 医療従事者研修事業/拠点病院ネットワーク事業

関東甲信越ブロック小児がん拠点病院、東京小児がん研究グループ共催

「2016秋季セミナー」

日時：2016年10月29-30日（土曜午後～日曜午前）

場所：多摩永山情報教育センター（東京都多摩市諏訪2-5-1）

講演（演者）・実習：

- 「神経芽腫の標準治療のなりたち」松本公一先生
- 「小児がん疾患の遺伝カウンセリング」沼部博直先生（お茶の水女子大学）
 - 「医療統計入門」吉村健一先生（金沢大学）
 - 「表面マーカー解析の読み方」清河信敬先生

「小児緩和ケア多職種チームカンファレンス」 企画

2017年 3月 11日 (土) 11:00~17:00

聖路加国際病院 臨床学術センター 3302号室

対象：小児がん治療を行っている施設において、緩和ケアの提供に携わる医療従事者（多職種対象）

グループワークと講義

- 1) テーマに沿った症例提示1（10分）
- 2) グループディスカッション1（討議50分、発表25分、講評5分）
- 3) 講師によるレクチャー（60分）
- 4) テーマに沿った症例提示2（10分）
- 5) グループディスカッション2（討議50分、発表25分、講評5分）
- 6) 意見交換（20分）

主催：国立成育医療研究センター こどもサポートチーム

共催：関東地区の小児がん拠点病院（都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科、埼玉県立小児医療センター 血液・腫瘍科、神奈川こども医療センター 血液・再生医療科）
東京小児がん研究グループTCCSG

協力：大阪市立総合医療センター 緩和医療科

「小児がん看護研修」

国立成育医療研究センター 教育研修棟／病院講堂

	テーマ	講師	時間
9 月 24 日 (土)	小児がん対策、疫学、最新の動向	小児がんセンター センター長 松本 公一	9:55~10:15
	小児がんの代表的疾患と治療 概論	小児がんセンター センター長 松本 公一	10:15~12:00
	小児がん看護	8階西病棟/小児がんセンター外来 看護師 柴田 映子	13:00~14:00
	小児がんの化学療法と症状マネジメント	がん化学療法看護認定看護師 副看護師長 釦持 瞳	14:00~15:00
	グループ討議		15:10~16:30
1 月 14 日 (土)	終末期にある小児がん患者と家族の 心理的問題とその介入	こころの診療部 医師	10:00~11:00
	終末期にある小児がん患者と家族の看護	緩和ケア認定看護師 木須 彩	11:00~12:00
	小児がん患者の晩期合併症について	小児がんセンター 医師 清谷 知賀子	13:00~13:40
	小児がん長期フォローアップ外来の看護	小児がんセンター外来看護師	13:40~14:20
	退院支援：復学支援・在宅移行支援	小児がん相談員 ソーシャルワーカー 鈴木 彩	14:30~15:00
	チーム医療・他職種連携について	8階西病棟/小児がんセンター外来 看護師 柴田 映子	15:00~15:20
	グループ討議		15:30~16:20

緩和ケアレクチャーシリーズ

国立成育医療研究センター こどもサポートチーム主催の勉強会。
 院内外の医師、看護師、薬剤師、その他コメディカルを対象としたもので、
 年3-5回の開催を計画

	開催日	講演タイトル	講師(敬称略)	
第1回	2014/8/27	「小児がん患者の栄養に対する 神奈川県立こども医療センターの取り組み」	和田 碧	神奈川県立こども医療センター 栄養士
			世川 晶子	神奈川県立こども医療センター 歯科衛生士
第2回	2014/11/19	「小児の在宅緩和ケア」	前田 浩利	医療法人財団 はるたか会 あおぞら診療所新松戸院長
第3回	2015/3/18	「子どもと保護者のグリーフケアを考える」	西尾 温文	一般社団法人 The EGG Tree House 代表理事
第4回	2015/7/23	「笑いの力 ホスピタル・クラウンの現場から」	大棟 耕介	有限会社 プレジャー企画 代表取締役会長
第5回	2015/11/20	「アート・デザインによる医療環境の支援」	村上 史明	筑波大学芸術系助教
			岩田 祐佳梨	筑波大学大学院 博士後期課程
第6回	2016/3/18	「治癒が望めない病気をもつこども・家族との話し合い —小児におけるアドバンス・ケア・プランニング—」	余谷 暢之	神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科
第7回	2016/8/26	「こどもの病院におけるおもちゃの役割について」	多田 千尋	芸術教育研究所所長 東京おもちゃ美術館館長
第8回	2016/11/11	「小児集中治療における看取りについて」	植田 育也	埼玉小児医療センター 集中治療科 科長兼部長